



病院NEWS

no. 391
2017
01/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/ 病院長 横見瀬 裕保

年頭所感

病院長 横見瀬 裕保

2017年の初頭に当たり、皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

香川大学医学部附属病院は、昭和58年10月に香川医科大学医学部附属病院として開院し、すでに34年となります。いたるところに老朽化が進み、患者さんのために、次世代の医師のために、再開発は避けて通ることができません。すでに南病棟、東病棟、手術棟は刷新され、最先端の医療、最高の療養環境を患者さんに提供しています。今年4月には改修された西病棟への患者さんの移送が完了します。手術室は4室改修され5月から合計12室が稼働します。あとは外来棟、中央診療棟の改修を行い、平成31年度からすべてが刷新された新生香川大学病院が活動を始めます。

一昨年から再開発に伴う一時的な病床の休床が続いているため、入院や手術の治療をお待ち頂くなど患者さんや地域の医療機関の方にはご迷惑をおかけしましたが、昨年5月に本来の病床数での稼働にほぼ戻っています。

これで、本院の基本理念「患者さんの権利を尊重し、良質な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し医療の発展に寄与する。」を新たな段階に発展させる環境が整いつつあります。また、かつての大学病院像、待っていても患者さんは来る、ではなく自分たちが進んで患者さんに寄り添い、いつも近くにいる香川大学病院を目指します。県民への最高・最良の医療の提供、新しい治療法の開発、新しい医療人の育成のために、本年も邁進して参ります。香川県なら香川大学病院と言われるように、香川県の The Hospital を目指して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

再開発後のイメージ図



▲玄関ホール



▲外来診療科受付



▲正面玄関外観(案)

国立大学附属病院災害対策相互訪問事業について

管理課

平成28年10月4日(火)に、国立大学附属病院災害対策相互訪問事業の一環として、本院において災害対策状況調査が実施されました。

災害対策相互訪問事業とは、お互いの災害対策能力を確認し、不備事項の洗い出しや助言などを行うことによって、国立大学附属病院全体の災害対策能力の底上げや標準化、防災意識の向上を目的として、平成25年度から実施されているものです。中国・四国地区ブロックにおいては、今年度は本院など3大学が対象となっています。

当日は、鳥取大学医学部附属病院から本間救命救急センター長ら12名が来訪し、本院の災害対策確認表に基づきエビデンスの確認、施設内の確認、その他特筆すべき取組みなどの調査が行われました。午後からは、防災訓練の視察が行われ、調査の結果、いくつかの指摘事項はありましたが、全体的に大変良好であるとの講評を受けました。

今後も、他病院の災害対策を参考としながら、「防災力の強化」に努めたいと思います。



▲調査会場



▲院内視察

快晴の11月3日文化の日に香川県医学会学術集会を香川大学医師会が当番医師会として開催されました。香川大学医師会が発足してちょうど30年の節目の年にあたり、大学医師会の会員が総力を結集しての大会となりました。456名という、過去3年間でも最も多数の参加者を得ることが出来、各会場とも予想を上回る熱気に包まれておりました。午前のシンポジウムは、日本医療安全調査機構常務理事の木村壯介先生をお招きし、田宮 隆副病院長と吉野公博先生（香川労災病院副院長、医療安全管理室長）の司会で、昨年開始された医療事故調査制度について現状と問題点について率直な意見交換が行われました。この新制度では医師会の役割が大きく、この観点から久米川 啓香川県医師会長からもご発表いただきました。午後は、若手医師の育成こそが香川県の医療の発展の鍵になると思われましたので、県内で活躍する初期研修医のみなさんに参加していただきライブカンファレンスを行いました。舩形 尚教授の総合司会で、香川医科大学出身で総合内科医の横井 徹先生にプレゼンターになっていただき、京都洛和会音羽病院副病院長の酒見英太先生を講師にお迎えし、診断への道筋をどのようにつけるかを実際の症例を使ってご教授いただきました。酒見先生はNHKのドクターGに初期のころから何度もご出演されており、今回もドクターGをまさにライブで再現していただきました。酒見先生にも病名を伏せての進行でしたので大変緊張感に包まれた企画になりました。また、アオイ電子や(株)レアースウィートなど多数の企業が展示に積極的に参加していただけたこともあり、にぎやかな会場の雰囲気の中で香川県医師会の皆さまにも医学会を楽しんでいただけたと思います。最後になりましたが、香川大学医学部医学科同窓会「讃樹會」から心強いご支援をいただいたこと、香川大学医師会や附属病院の各診療科の先生方、企画に全面的にご協力いただいた卒業臨床研修センターの皆さまのご支援にあらためてお礼申し上げます。



C型肝炎ウイルスは、1989年見出されたウイルスです。このウイルスは主に輸血などの血液を介して、感染してきました。このC型肝炎ウイルスに感染すると、ほとんどの場合、慢性肝炎に移行し、そして肝硬変から肝細胞癌へと導くウイルスです。今も肝細胞癌で年間3万人以上が亡くなっており、その原因の約50%がC型肝炎ウイルスによるものです。だからこそ肝細胞癌にならぬために、C型肝炎ウイルスを駆除する必要があります。C型肝炎ウイルスは大きく分けて1型と2型があり、特に1型タイプでかつウイルス量が多い患者は当初治療抵抗性でありました。C型慢性肝炎の駆除のための治療は、1992年から始まり、副作用のあるインターフェロン注射を使用しても1型の高ウイルスの患者は、当時は数%しか駆除できませんでした。さらに、最も駆除しなかった肝細胞癌のハイリスクグループであるC型肝炎ウイルスによる肝硬変あるいは発がん率の高い高齢者には、副作用の観点からインターフェロンを含む治療は使用できない状況でした。

ところが、2015年にC型肝炎治療のマイルストーンという言べき年になりました。C型肝炎のウイルスが増えるためには、ウイルス遺伝子のNS3、NS5A、NS5Bが作る3つの蛋白質が必要であり、これらを阻害する経口薬剤が登場しました。今ではインターフェロンを使用しない3ヶ月の経口剤の服用で、ほぼ100%C型肝炎ウイルスを駆除できるようになりました。この新薬は副作用も少ないため、80歳以上の高齢者にも使用でき、発癌のリスクの高い肝硬変患者にも使用できるようになった画期的な薬剤です。薬剤は、極めて高価ですが、医療補助制度があり、ほとんどの患者様が月1万円でこの治療が受けられます。是非検診等でC型肝炎ウイルスに自分が感染しているかどうかを調べ、感染していたら速やかに専門施設に受診して駆除することが重要です。

毎日新聞「四国健康ナビ」H28.10.18掲載

第9回 医学生と医師の卒後キャリア形成に関する情報交換会が開催されました

ワーク・ライフ・バランス支援室

平成28年11月21日(月)午後6時より、標記情報交換会が臨床講義棟1階にて開催されました。

これは、香川県、日本医師会、香川県医師会、香川大学医師会ならびに本院の共催及び本学男女共同参画推進室の協賛により、将来の医療を担う医学生や若手医師を対象に、今後のキャリア形成に役立ててもらおうと実施している情報交換会で医学科4年生の特別講義として、学内外から145名(うち学生107名)のご参加をいただきました。

高松市保健所の藤川愛先生の楽しい司会で男女共同参画推進室コーディネーターの村上弥生先生から推進室の紹介や医師の仕事と生活では本院の精神神経医学の中村祐教授、小児外科学の田中彩先生、腫瘍センターの奥山浩之先生に加えKKR高松病院の荒川裕佳子先生をお迎えしてWLBに対する取り組みや、ご自身のキャリアや育児の工夫などをそれぞれご講演いただきました。

また、司会者の藤川愛先生から「こうのどり」のモデルとなった本学卒業生のりんくう総合医療センター荻田和秀先生をはじめ先輩産婦人科ドクターからのメッセージも届けられ、有意義な情報交換会となりました。



イルミネーションについて

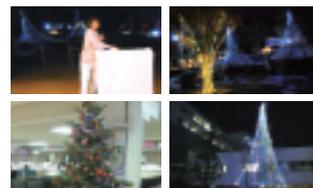
来院されるかた皆さまの心の安らぎになればと、病院玄関ホールにクリスマスツリーを、病院玄関前に電飾によるイルミネーションを飾っています。

12月5日(月)17:30～、病院玄関にてイルミネーション点灯式を開催しました。

筒井副病院長の挨拶の後、カウントダウンで点灯しました。

なお、イルミネーションは12月5日(月)から、翌年1月6日(金)まで点灯しています。

医療支援室



がん患者サロン(音楽療法士、美容師)

がん相談支援センター

平成28年9月に三崎音楽療法士による特別講演会、「歌は心のビタミン剤」を開催しました。懐かしい歌を歌うことで脳の活性化や使わない筋肉を使うこと、大きな声で歌うことによって肺の筋肉を鍛えることができる等のお話をはさみながら、参加者全員で時には体を動かしながら全13曲を楽しく歌いました。



11月には「どんな時もあなたらしく」ウィッグ・メイクアップレッスン講座と題して、美容師の泉保先生と野間先生2名による、がん治療の副作用として起こる抜け毛や肌トラブルに対するお手入れの仕方や対処等について、先生の経験を交えた具体的なアドバイスがあり、参加者から活発な質問が寄せられました。多数ご参加いただきありがとうございました。次回は1月19日栄養についてです。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

● 臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H29.1・2月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
1/12 木	14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:野菜のうまみを感じましょう 理学療法士:今からでも始めよう。体を動かすこと!! 医師:糖尿病とうまく付き合うために	臨床栄養部	(087)891-2066
1/19 木	14:00~16:00	病院2階 カンファレンス室	がん患者サロン	がん相談支援センター	(087)891-2473
1/22 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町老番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新治療- 「正しく知ろう 乳がん 乳がんってどんな病気?」	総務課	(087)891-2008
1/26 木	14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:1日に必要な野菜の量ってご存じですか 看護師:未定 薬剤師:糖尿病のお薬について	臨床栄養部	(087)891-2066
2/3 金 2/4 土		かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第22回日本脳神経外科救急学会	脳神経外科	(087)891-2207
2/5 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町老番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新治療- 「股関節疾患に対する治療-最近の話題-」	総務課	(087)891-2008
2/9 木	14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:清涼飲料水に潜む落とし穴 歯科衛生士:糖尿病と歯周病について 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
2/23 木	14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:糖尿病の食事療法について 看護師:未定 検査技師:糖尿病の検査には何があるの	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、石井(外来)、小野(総務)、笹川(放射線)、白神(麻酔)、田川(管理)、田中(看護)、中妻(看護)
芳地(薬剤)、村上(病棟)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事)[委員長 横見瀬病院長]